

# 明智光秀と岐阜市



明智光秀

令和2年大河ドラマ「麒麟がくる」の主役は明智光秀(長谷川博己)。舞台は1540年代の岐阜市をはじめとする美濃一帯。斎藤道三(本木雅弘)を主君とする光秀の青春時代(20代)からのスタートです。大河をきっかけに岐阜市を訪問されるお客様をお客様をお迎えするため、3回にわたって明智光秀とゆかりの人物、市内周辺の見どころなどを紹介する連載企画、第2弾をお届けいたします。

## 内堀信雄氏 (岐阜市教育委員会)

プロフィール (うちほりのふお)  
昭和34年、栃木県宇都宮市に生まれる。  
昭和61年、名古屋大学大学院文学研究科(考古学)卒業。  
岐阜市教育委員会にて信長公居館跡発掘調査、長良川鶴岡宮俗調査などを担当。  
現在、岐阜市教育委員会社会教育課長  
■主な著書  
「守墓所と戦国城下町」高志書院、平成18年  
「小牧山城・岐阜城・安土城」中世城館の考古学、高志書院、平成26年



### 5 3期・足利義昭の上洛と信長・光秀



岐阜城

1567年8月、織田信長は斎藤龍興の稲葉山城を占領、小牧山から居城を移すとともに、城と町の名を岐阜と改めます。翌1568年7月には越前から足利義昭を美濃に招き、ただちに上洛戦を開始。10月には義昭は將軍に就任、室町幕府再興が果たされます。ここでは義昭の動向、光秀の動向、遺跡から見た状況の3つの視点でこの時期を考えてみます。

#### (1) 足利義昭の動向

1565年5月19日、三好三人衆らにより將軍足利義輝が暗殺される

という大事件が起きます。当時奈良興福寺にいた足利義昭は、重臣細川藤孝らの手引きで近江へ脱出。幕府再興を全国の大名に働きかけます。中でも本命は上杉謙信と織田信長だったとされます。藤孝は信長との交渉担当でした。

当時の信長は美濃・斎藤龍興と抗戦中でしたが、両者は和睦して上洛に協力することで合意します。ところがこの上洛計画は信長の約束違反で失敗に終わります(1566年8月)。9月、義昭は若狭を経て越前敦賀へ到着。一年以上経った1567年11〜12月頃に越前朝倉氏の首都・一乗谷へと移動します。一乗谷では南陽寺での公会。朝倉館での元

4				3		2		1				期	
55	52	49	46	44	41	40	29	23	17	16	12	1	歳
1582	1579	1576	1573	1571	1568	1567	1556	1550	1544	1543	1539	1528	年
本能寺の変。山崎の合戦	光秀、丹波・丹後平定	信長、安土城へ移る。光秀、亀山城築城開始	義昭京都追放。光秀、京都代官任命	信長、比叡山焼き討ち。光秀、坂本城築城開始	信長、義昭を奉じて上洛	信長、稲葉山城入城。岐阜と命名	道三敗死(長良川の戦い)	道三、土岐頼芸追放	道三、織田信秀らに大勝(加納口の戦い)	大桑城の戦い	道三、稲葉山城・城下町建設	光秀誕生か(他説有)	

資料1 光秀・道三年表(光秀年齢は数え年)



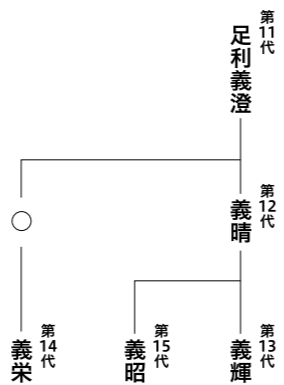
立政寺 信長と足利義昭会見の地

服儀式。朝倉館に義昭を招いての饗宴。義昭館へ義昭を招いての能、など様々な祝賀行事が催されています。朝倉義景は、上洛について消極的だとされますが、義昭に対する「おもてなし」は最上級でした。義昭が美濃の信長を頼ろうと決断したのは、光秀らの仲介により上洛を前提に美濃へ移るための交渉がうまく進んだことはもちろんですが、義昭滞在中の1568年6月25日、義景の嫡男が毒殺されるという大事件があり、一乗谷が義昭にとって安全な地とは言い難くなってきたことが背景にあると考えます。7月13日、義昭は一乗谷を出発、途中近江小谷城に立ち寄りつつ7月25日美濃立政寺に到着、信長との対面を果たします。そのひと月余り後の9月7日には信長は岐阜を出陣し、近江六角氏の諸城を落として9月26日に京都入りを果たし、畿内を平定

#### (2) 明智光秀の動向

光秀が越前に滞在したことは、光秀存命時の記録に「美濃の土岐一家の浪人だったが朝倉義景を頼って長崎称念寺(福井県坂井市)門前に十年間滞在した」と記されていたり、縁の人物が越前に住んでいることから認められているようです。ただし、朝倉氏に仕えていたという点には疑問符が付けられています。

光秀が義昭と信長の交渉を行ったことは多くの研究者が指摘するところです。最近では「上洛計画のトン挫で、義昭は信長や藤孝に不信任を抱いた。そこで藤孝は1567年末以降、当時越前にいた知己の光秀に信長との交渉を託したところ成功した。そのため光秀が義昭の家臣に



資料2 室町幕府將軍系図(第11代~第15代)

